

平成 22 年 11 月 16 日

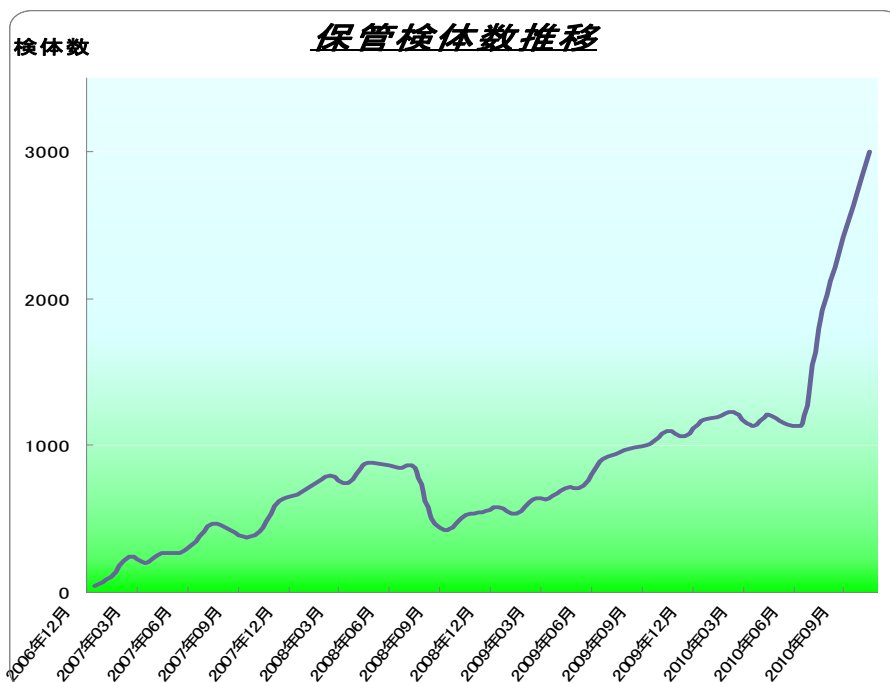
各 位

会 社 名 株式会社メディビックグループ
 代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
 (コード番号 2369 : 東証マザーズ)
 問合せ先 執行役員管理本部長 門井 豊
 (Tel: 03-6415-4031)

検体保管サービス事業、保管検体数 3,000 検体超過のお知らせ ～テーラーメイド創薬支援事業の今後の拡大に期待～

当社グループ会社、株式会社メディビック（メディビック）は、神戸市の財団法人先端医療振興財団（当財団）との共同事業として当財団が運営する臨床研究情報センター〔Translational Research Informatics Center〕の設備を利用して、GLP 準拠により医薬品開発やトランスレーショナル研究における「検体」を保管しております。保管している検体の多くは、主に製薬企業より依頼を受けて保管しているもので、一般的に新薬開発における遺伝子などの解析が目的とされており、液体窒素タンクや超低温フリーザーの設備、万全のセキュリティーシステム、匿名化・検体管理システムにより厳格な管理のもと長期保存されております。また、検体保管サービス（本サービス）は、テーラーメイド創薬支援サービスとして 2008 年 6 月に ISO9001 の認証を取得し、一層の品質向上に努めております。

メディビックは、本サービスに関し、当財団と 2005 年に基本合意書を、翌 2006 年に合意書を締結し事業をスタートして以来、2007 年 500 検体、2009 年 1,000 検体と保管検体数を順調に伸ばしてまいりましたが、ここ最近における急激な需要増に伴い、このたび保管検体数が 3,000 検体に達しました〔下記図表ご参照〕。



メディビックでは、この急速な検体数の増加の主な要因を製薬企業においてこれまで準備されてきたテーラーメイドに基づく新薬開発プロジェクトが本格稼働し始めたものであると考えております。また、この傾向は今後も続いていくものと期待しており、保管検体数の増加に伴い検体サンプルからのDNA抽出、データ解析などの顧客ニーズ増加も大いに見込まれます。メディビックはこれら需要に積極的に対応していくことでテーラーメイド創薬支援事業全体の業績向上を図ってまいります。

なお、本件が当社平成22年12月期（平成22年1月1日～平成22年12月31日）における連結業績見通しに与える影響は軽微であります。

【検体保管サービスに関するお問い合わせ先】

株式会社メディビック

メディカルテクノロジー事業部

Tel : 078-306-1836

E-mail : info@medibic.com

株式会社メディビックグループ

当社グループは、個人の体質に合わせて副作用の少なく効果の高い薬を処方できるテーラーメイド創薬の実現を目指す企業です。具体的には、医薬品開発や研究などを行う製薬企業や研究機関などに対し、個別化医療やテーラーメイド創薬を推進するサービスや製品を提供しています。

薬の効き目の個人差を示す体質は、遺伝子によって決められています。個人の遺伝子タイプが分かれば、体質に合ったより効果の高い薬を選択し処方することができ、また、副作用も最小限に留めることができます。このため、製薬企業では遺伝子と薬の関係を調べて医薬品開発をするようになってきています。そこで必要となるのが、PGx（ファーマコゲノミクス）です。

当社グループは、PGxを総合的・戦略的に支援できる体制を整えています。当社グループが独自に築いた、バイオ最先端の技術・情報網、そして医療機関・製薬企業などとの幅広い人的ネットワークの活用により、PGxに対するニーズを的確に掴み、顧客の要望に適した満足度の高いサービスを提供しています。

また、これまでに蓄えてきたノウハウを個人向け健康管理支援サービスとして展開しております。

当社グループは、個の医療と個の健康管理を総合的・戦略的に支援できるユニークな存在として実績を積み重ねることにより、圧倒的に優位なビジネスポジションを築いています。

当社グループの詳細情報は、www.medibic.com をご覧ください。

以上